

ほほえみ

笠間市
文化協会
会報

第20号

発行日 2024・令和6年3月1日

編集・発行 笠間市文化協会
発行責任者 会長 枝川良雄
事務局 TEL 0296-78-0948



茶の湯体験



陶芸体験



マーチングドラム演奏体験



ゆかたで体験 舞とお茶



ジュニア短歌大会



友部小学校合唱隊



ひまわりコーラス



女声アンサンブル・萌



マーガレット・エコー



女声合唱団コール・ポプリ



プログラム



Brother Beats (ブラザービーツ)

もくじ

- 第15回You・遊文化スクール報告 2～3 P
- 加盟団体活動報告 4～5 P
- 訪問インタビュー 吉武和治郎さん 6～7P
- イベント情報・編集後記 8 P

第15回 You・遊文化スクール

昨年11月18日、5つの体験教室：「茶の湯体験」、「陶芸体験」、「マーチングドラムの演奏体験」、「ゆかたで体験舞とお茶」、「ジュニア短歌大会」を開催し、市民の皆様とともに主催者側のメンバー共々体験や交流を深め、楽しいひとときを過ごしました。

午後は、3階ホールで5つの合唱団の皆さんの美しい合唱が披露され、Brother Beats (ブラザービーツ) さんの息の合ったパフォーマンス・演奏が披露され、会場の皆様とともに感動の時間を共有できました。

茶の湯体験

表千家わび茶

昨年に続き、今年もYOU・遊文化スクール体験教室に参加させていただきました。

ゆかたで体験を済ませ、ゆかた姿でお点前席に参加してくださいました。最初は遠巻きに見ていた

人達も、お声掛けすると「若い頃少しだけ」とか「初めてだけど」と言いつつ、ながらも多くの人が点前席に坐して下さいました。



体験は、ほんの一部分でしたが、初めて茶筌を振って感動したり、自分で点てたお茶を見てにっこりしたりで、隣にいて思わず一緒に笑顔になりました。

ブラザービーツのお二人も初体験で、「ひしゃくや茶筌」の茶道具を使ってお茶を点て、自画自賛し「機会があったらまた挑戦したい」と感動しきり!!。ゆかた姿の小学生もお手伝いしてくれ、盛会で終了できました。(横手 ひろ子)

陶芸体験

映像でわが町をつくる会

5年振りの「陶芸体験教室」でした。小学生から大人の方々の参加で、講師の磯部さんの製作上の注意点などのお話しを伺って始まりました。それぞれの思いやア

イデアと工夫で、「使えるものを作る」と皆さん楽しんで下さいました。



は、新年までに焼成され、友部公民館のギャラリーで展示の後、製作の皆さんに渡されました。(枝川 良雄)

ゆかたで体験

舞とお茶

今回の体験教室は、参加者が和服を着て、伝統文化の茶の湯と日本舞踊の手ほどき体験する事を目的に致しました。

11月の開催でありましたが、冬の和服の貸出には無理があったので、装着の簡単なゆかたの貸出と着付けに致しました。

わび茶の皆様のご協力により、心静かに茶の湯に参加させて頂き、その後、舞踊体験の開講までの時間を和服姿で自由に館内体験に参加する事もできました。

舞踊教室では、まず模範演技を披露し、次に基本的なお辞儀の作法や所作の指導を致しました。日常生活には無い身体の動かし方に戸惑いを見せていた受講生達も、終了時間には課題曲を踊る事ができました。皆さんの気力、体力、集中力をあらためて称賛致します。



ジュニア短歌大会

友部短歌会

コロナ禍によるプランクなどなかったように、小・中学校6校から341首の応募があり、その中よりジュニアらしい柔軟な発想から作られた短歌63首が入

る。



(大島 純子)

選作品となった。

当日の出席者は、ジュニア38名と保護者46名、短歌会のスタッフ9名。友部短歌会講師である磯田ひさ子先生は、午後から茨城県芸術祭文学部門の表彰式があり、短歌の部で表彰になるため、淡い黄色の訪問着姿でおいでになられた。

会場は、討議室を予約していたが、予想を超える出席者に、急遽変更した大会議室は、先生の歌評の後、起立した作者への祝福の拍手で大きく盛り上がった。

当日テキストとした「入選歌集」から、特選の作品を紹介する。

野良猫のバトル開幕闇の夜家では一人眠気とバトル (松岡 和枝)

友部中 二年 友部 郁子
風を切り滑る斜面は斑雪磐梯山の白き背の上

友部二中 二年 三宝 彩芽
チョコパイは僕にとつての大秘宝
まったくたりない9個入りでは

友部二中 二年 瀬谷 空暉
クロールを早く泳げた水泳で分かった気がする魚の気持ち

友部小 六年 間中 一道
岩の上ねむってすごすアザラシは
休日ねてるお父さんのよう

友部小 六年 内桶 葵都
夏祭り金魚を2匹すくつたらすく

死んじゃったごめんね金魚

友部二小 六年 小松崎南菜
ツーリング愛宕山までひとつ飛び
父の運転あらずぎる

友部二小 六年 大和田陵太
運動会団結力が深まった涙流した
あの日から今

六戸小 六年 深谷 彩乃
筑波山おやつを食べてつかれ飛ぶ
てっぺんに立ちまたつかれ飛ぶ

六戸小 五年 荻原 初羽
ラムネ瓶ビー玉のよう見えていて
触れられないとより欲しくなる

北川根小 六年 東野 希星
夏休みセミがミンミンうるさいな
ついでにママもガミガミうるさい

北川根小 六年 真家 快斗

演奏会

午後からは、3階大ホールで演奏会を開催しました。

第一部は、笠間市合唱連盟から4団体と友部小学校合唱隊が美しい歌声を披露しました。全26曲の多彩な楽曲を、聴衆の皆様は静かに味わったり体を揺らしたり...。それぞれに楽しんで居られました。

友部小学校合唱隊は、今年度でその活動に終止符をうたれるとのこと。大変残念ですが、きつと音楽を大好きであり続けて下さると信じています。

5つの合唱団は、文化協会が発



足10周年の記念に制作した「子ども短歌・子ども俳句合唱作品集」の再演にも協力して下さいました。お礼申し上げます。その節の短歌や俳句の作者は、最年長で18歳...。今は25歳になっていますね。すてきな大人に成長されたことでしょう。

第二部は、マーチングドラムのデュオ Brother Beats (ブラザービーツ) の圧巻のパフォーマンスが繰り広げられ、公民館大ホールはまるでライブ会場のような熱気と拍手で盛り上がりました。

笠間市の特別観光大使でもある彼らの今後のますますの活躍を応援して行きましょう。(文化協会 副会長・事務局長 今井 みどり)

マーチングドラムの演奏体験 Brother Beats

ブラザービーツが文化協会に加盟してから、今回初めて文化スクールに参加させて頂きました。

市内は もちろん 市外からも足を運んでいただき、小学生から大人まで幅広い年齢層の中、一緒に演奏体験が出来ました。大きな音を出すのが良くなるそうで「スカッとすー！」「元気が出る！」「一体感があつてとても気持ちが良い！」など様々な声を頂きました。皆様のワクワクした表情が今でも忘れられません。本当にありがとうございます。



ブラザービーツは、2024年で結成10周年を迎えます。今後各所でイベント出演をしていきますので是非お越し下さい！

(仲本 克也)

ひまわりコーラス47周年記念・
マーガレット・エコー45周年記念
合同コンサート開催

令和5年5月7日、笠間公民館大ホールにおいて、ひまわりコーラスとマーガレット・エコーの二つのコーラスグループでコンサートを行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、大勢のお客様がご来場されました。新型コロナウイルスへの対策がまだまだ必要な時期ではありましたが、皆様のご協力のもと無事開催できたこと感謝しております。

第一部は、朝ドラ「花子とアン」に登場した柳原白蓮さんの歌にメロディーを付けた組曲「われはここに」と、一九七〇年代のJポップを歌いました。皆さんになじみのある曲を選びましたので歌を聴きながら青春



時代を思い出して楽しんでいただけたことと思います。

第二部は、マーガレット・エコーさんと合同で民謡を3曲歌いました。民謡を歌うのは初めてで振り付けもありましたので、この曲をマスターするまでにはかなりの時間を要しました。でも、歌い出すと客席から自然に手拍子が起こりました。それによって大ホールが一体となった気がしてとても嬉しく幸せな気持ちになりました。

2時間ほどの公演が終わり、来館された皆様は口々に「楽しかった」と言われてお帰りになりました。私たちコーラスのメンバーもあらためて歌うことの楽しさを感じた一日でした。

(ひまわりコーラス 小室和子)



明日から新型コロナウイルスも5類感染症になるという5月7日、私達のコンサートは開催されました。ともに町田由美子先生のご指導をうける「ひまわりコーラス」の47周年と、「マーガレット・エコー」の45周年の合同コンサートです。

コロナ禍では、多くの方々が様々な制限の中で、我慢しながらの生活を送っていたことと思います。皆で声を出す合唱もリスクが高いとされ、感染状況により活動を自粛したり、落ち着けば再開したり、の繰り返しでした。そんな中、やっと、本当にやっと感染に気がつけながらコンサートを開催することができたのです。私達を支え、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

当日は、一曲一曲が楽しく、愛おしく、歌える喜びがステージいっぱい広がった、そんなコンサートになったと思います。何より私達がうれしかったのは、お客様のお笑顔です。客席からステージに向けられた笑顔、終了後のホワイエでいただいた多くの笑顔は、私達の宝物です。

雨の中ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。

(マーガレット・エコー 太田すみ枝)



全日本おかあさんコーラス
全国大会出場

私たち「女声合唱団コール・ポプリ」は、1992年指揮者である今井みどり先生の呼びかけで発足し、それ以来約30年間コーラス活動を続けて参りました。

そして今年、念願でありました「全日本おかあさんコーラス全国大会」に出場を果たすことができました。「幅広い年齢層ですが、お互いを大切に、毎回楽しく練習しています。」全国大会のプログラムに掲載した団体紹介の一部です。ポプリが今回演奏した「わたし



が一番きれいだったとき」という曲は、茨木のり子さんの詩に田中達也さんが曲をつけた作品です。茨木のり子さんは、青春時代を社会的に最も閉ざされた戦争中にごさなければなりませんでした。その若い女性のくやしさと悔いを未来への夢と欲望に変え、さわやかな呼びかけの口調でうたいあげました。

今井先生は、彼女の詩に深く感銘と共感を得、熱く私たちに指導されました。そして、躊躇する団員を説得して振り付けを加えました。これが新鮮だったのか、県大会を抜け、関東大会へ出場できるだけでも、私たちにとっては狭き門でした。会の最後に関東大会へ行く際の番号と団名とがアナウンスされるのですが、ドキドキと期待が高まる中、私たちの団名はスルーされる。帰路の電車の中で悔しがる。その繰り返しでした。

今回「コール・ポプリ」と団名が呼ばれたとき、団員はキョロキョロと視線を合わせ「ウソ!!」という感じで跳び上がりました。次の日の新聞には、観客席の方に振り向き一緒に歌い踊る指揮者の様子が写真入りで掲載されました。前回の「ほほえみ」誌に「文化協会の事業を継続すべく、今後も

工夫・交渉・努力を重ねて参りました。」と書かれていました。先生の工夫と努力の賜物だったのですね。

そしてこんなに飛躍できたこと、コーラスをこよなく愛する経験豊かなメンバーたちが加わったことが大切なポイントでした。たずまいによって、いろいろなことに気づかせ、学ばせてくれます。

7月8日に千葉県市川市で開催された関東支部大会に出場。ここでも優秀賞を獲得し、全国大会に出場することができました。会場は、日本で初めて世界文化遺産に登録された「白鷺城」とも呼ばれる姫路城のある姫路市の「アクリエひめじ」大ホールでした。

前後しますが4月18日には「第12回国際シニア合唱祭ゴールデンウエーブ in 横浜」に出場。この際、

笠間市文化協会から助成金をいただきました。ありがとうございます。講評者の方々からは「ステージの立ち姿が美しい。品格を感じさせる。柔らかな声。日本語が美しい。」などの好評価を頂きました。

最後に、来たる5月19日(日)笠間公民館に於きまして、女声合唱団コール・ポプリ第6回演奏会を開催予定です。

是非みなさま、お誘い合わせの上、足をお運び頂けましたら幸いです。

(女声合唱団コール・ポプリ
阪場博子)



横浜みなとみらいホール 大ホール

かさま環境を考える会 吉武和治郎さん 訪問インタビュー



友部図書館講座や笠間市・茨城生物の会の「自然観察会」にご参加の方、公民館まつりで「かさま環境を考える会」の展示をご覧いただいた方もあるかと思えます。

教員を勤める傍ら、身近な自然に関わる活動(以降 活動 と表記)を永年続けられる吉武和治郎さんにお話を伺いました。

(取材12月枝川・佐々木・今井) 生き物との出会いは? 吉)小学生高学年の頃から夏休みの自由研究で植物採集・標本作りをしていた。

高校に入って、「山に行けるよ」と友人に誘われて生物部に入った。生物室で顧問の長田武正先生(後にスギゴケの研究で博士号を取得し、大学教授に転任)に「全国からコケ植物の同定を依頼されるが、時々地衣類が混じってくる。私は地衣類は分からない。君達やってみないか?」と言われたの

がきつかけで、地衣類を採集・調査するようになった。

進路を決めかねている時、岩に着いた地衣類が暑い夏は干からびながらも、雨が降ると生き返ったようになるのを見て、「地衣類のように頑張ろう」と励まされていた。

そのような折、福岡市郊外の宝満山でイワタケを採集した。長田先生に「茨城大学の佐藤正己教授がイワタケの分布を調べておられる。送ってあげたら」と言われて送った。すると、「福岡県では2例目です」との丁寧な返事を頂いた。

その後、鬼ヶ鼻岩でイワタケを見て教授に送ると、再び色々と解説されたお手紙を頂いた。

それで、茨城大学に行き、地衣類を勉強しようとした。幼少



イワタケを採集する吉武 1963年 宝満山(福岡県)



イワタケの標本と手紙(左)

期から生き物に興味を持っていて、高校で生物部に入り本格的に研究を始めて「地衣類」に出会われた。進路に迷っていたときには力をもらい、茨城大学へ進学するきっかけとなったのが地衣類だったのですね。

さて地衣類とは? 吉)藻類と菌類が協力して生きていく地味な生物で、地面や木・岩などに着生。医薬品や染料の原料と意外に役立つている。

編)ありがとうございました。地衣類には日照も湿度も必要であり、空気汚染に敏感なので環境変化のバロメーターになるとのこと。茨城県は生物の南限・北限が多いために貴重な存在。友部地区を長く調べて来て、環境の低下を感じているそうです。高速道路や工場、ゴルフ場の影響があるかな?と。緑や川を守るだけでなく、開発には緑地帯を義務化するなどの努力が不可欠のようです。

知識豊富な吉武さんのお話は動物や植物の生態、人が与える影響の大きさなどにも広がり、調査で命を落としかけたお話まで。予定時間を過ぎても楽しく伺いませに あつという間でした。

活動の始まりは? 吉)茨城大学に入学後、生物研究

会に入部し、県内外の地衣類を調べた。

高校の教師になった頃(1970年代初め)、県立自然博物館設立の請願が始まった。しかし、経済状況の悪化のため見送りとなったが、請願者を中心に「茨城生物の会」が結成され、私も入会し、事務局員となった。

活動での出会い・今に続くことは? 吉)茨城生物の会の自然観察会や中学・高校生物研究発表会などに関わり、いろいろな方と知り合い、植物や動物を学ぶ。2000年より事務局長(2016年)。その後は会計監査)としていろいろな活動をし、多くの人と出会い、多様な経験をし、多くの知識を頂いた。

友部町時代に、町報に「友部の植物」を書くことになり、それまでは歩いたことがない友部町内各地を歩いて、友部には貴重な生きものがいることを知った。

1970年代の終わり頃、鉾田町の外れでニホンリスの轢死体を拾って以来、道路などで死んでいる動物の死体を拾っては剥製にして、各地で展示したりお話をした。

笠間市に自然博物館を作ろうと、いろいろな生物標本を集めた(脊椎動物:約120種、貝の仲間:

と、いろいろな生物標本を集めた(脊椎動物:約120種、貝の仲間:

約240種、コケ・地衣類…約180種、藻類…約110種、キノコの仲間…約170種などが、夢かなわずに処分(脊椎動物…約120種は、東海村歴史と未来の交流館に寄贈)。

「田那場池の奥にトウキョウサンショウウオがいる」と枝川氏から教わり、息子と調べて、隣接県まで足を伸ばしてサンショウウオ調査をした。

退職(2003年)後、環境省自然公園指導員や県の環境アドバイザーに任命され、おもしろ理科先生に登録して、学校や公民館などで自然関係のお話をしたり、自然観察会で指導。

2003年より、友部町内で年4回の自然観察会を開始(2023年現在80回実施)するとともに、友部環境を考える会(2006年)にかさま環境を考える会に改称)に入会した。

友部町役場の橋本正男氏を中心に、南友部でビオトープ天神の里造りをすすめる。
2010年より、かさま



お話しを伺う(取材)



茨城県自然博物館での展示会で

環境を考える会で特定外来生物オキケンケイギク抜き取り作業を始めて、現在は笠間市とごみを考える会で主催、茨城県後援の活動となり、笠間市内外の人達150余名とともに作業をしている(2023年現在で14回実施)。

何かの活動を始めた、続けた方へ助言を?

- ① 興味がある活動に参加する。
 - ② 同じ趣味の人と付き合う。
 - ③ 健康に留意して、外出の機会を増やす(外に目を向ける)。
 - ④ 年間の目標及び計画をたて、実行に努める。
 - ⑤ 活動の成果を発表し、他人に見てもらう。
- 例…公民館まつり。図書館のギャラリーやまちかどギャラリーに展示。「自分誌」などの

印刷物を発表。

- ⑥ 別の同好の団体と付き合い、思考を柔軟にする(独断に陥らないように)。
- ※写真は茨城県自然博物館展示の資料を撮影

吉武和治郎さんプロフィール

福岡県出身。県立福岡高等学校・茨城大学文理学部理学科(生物学専攻)卒。茨城高校、茨城県立友部養護学校・銚田一高・水戸南高・取手二高教諭、土浦一高教頭、鹿島灘高・鹿島高校長歴任。

茨城県県南生涯学習センター社会教育指導員、水郷筑波国定公園管理員(茨城県環境政策課嘱託)、自然公園指導員(環境省)などを歴任。

茨城県環境アドバイザー(県環境政策課)、おもしろ理科先生(県教育委員会)、自然観察指導員、CROSS特任研究員、茨城県レッドリスト検討委員、第3次総合調査委員(地衣類)(県自然博物館)、笠間市環境審議会(副委員長)、笠間市景観計画検討委員、茨城県外来種対策検討委員など。

地衣類研究会、茨城生物の会、かさま環境を考える会、(一財)総合科学研究機構特任研究員、水戸ボタニカルアート愛宕などに所属して活動中。

昨年から新年に開催された、茨城県自然博物館の企画展「地衣類(ちいらい)」に協力。
笠間市旭町在住。

主な著作

『茨城の自然 山野を歩く』(郁文、共著)、『茨城理科ものがたり』(日本標準社、寄稿)、『いままの自然(岩間町教育委員会、共著)、『友部町史(友部町、史料提供、協力)、『友部町の植生と植物』(友部町教育委員会、共著)、『理科自由研究ガイド 中学生版 自然を調べる』(木馬書館、寄稿)、『身近な環境を調べる』(東洋館出版、寄稿)、『ビジュアルリファレンス 生物総合資料』(実教出版、共著・編集)、『里美の自然』(里美村教育委員会、共著)、『友部町自然環境調査報告書』(友部町教育委員会、共著)、『日曜の地学8』(築地書館、寄稿)、『友部の自然』(友部町教育委員会、共著)、『高校の先生が作った茨城の自然観察ガイドブック』(茨城県高等学校教育研究会生物部、共著)、『共に育つ』(常陽新聞連載)、『愛はすてき』の心を共育より善い明日へ・元高校長の随想記(筑波書林)、『筑波山を歩く』水郷筑波国定公園管理員日誌より(STEP)、『おもしろ理科先生 いばらき自然散歩―生物との共存を夢見て―』(結ブックス)、『茨城県における絶滅のおそれのある野生生物(藓苔類・藻類・地衣類・菌類) 2020年版』(茨城県版レッドデータブック)『茨城県』短編小説『不慮の外』(茨城文学第49号)、『かさまの自然ガイド』(笠間市環境政策課)、『ジオガイド刑事の捜査日誌 愛宕神社死体遺棄事件』(筆名:常陸昇)(文芸社、私家版)など。

ピアニスト 小林萌里

昨年8月に、福島県川俣町で開かれたコスキン・エン・ハボン2023で1位となり、日本代表として1月にアルゼンチンでのコスキンフェスティバルに出場。

今年も、かさま歴史交流館(井筒屋)や地域交流センターともべ(トモア)などでの演奏会を始め、地元音楽が根付く取り組みが各地で実施されるかと思えます。

是非、ご参加ください。

3月3日(日) 14:00

地域交流センターともべ
トモアスペシャルタンゴコンサート
タンゴ六重奏コンサート



3月10日(日) 17:00

かさま歴史交流館(井筒屋)

3月23日(土) 14:15

ギター文化館(石岡市)

コスキン出場記念
フォルクローレコンサート



3月24日(日) 16:00

ガラジ(笠間市上加賀田)
ガラジ フォルクローレナイト



5月17日(金) 10:30

地域交流センターともべ
モーニングコンサート

出演: 柿長飛鳥(ソプラノ)
高辻瑠子(ヴァイオリン)

小林萌里(ピアノ)

5月18日(土)

かさま歴史交流館(井筒屋)

出演: 石引康子(琵琶)
小林萌里(ピアノ)

マーチングドラムデュオ Brother Beats

(ブラザービーツ)

笠間市の特別観光大使で、各地で活躍中のブラザービーツは、今年で結成10周年を迎えました。各地でのイベント出演などの際、機会を見つけて是非お出かけください。

3月20日(水祝)

タンテジヨウユーズカーニバル
ザ・ヒロサワ・シテイ会館
入場無料

3月31日(日)

音楽の祭典「Spring Concert 2024」
笠間市民体育館
入場無料

女声合唱団 コール・ポプリ 第6回演奏会

5月19日(日) 14:00

笠間公民館
入場無料



編集後記

コロナも落ち着き、文化協会の重要行事である「YOU・遊文化スクール」を開講することができました。

茶の湯体験コーナーには、美味しいお抹茶とお菓子が頂けるとあり、小学生から高齢の方まで沢山の人がお見えになりました。

ジュニア短歌大会には、市内小中学校から多数の応募があり、当日も入選者やその保護者の方など多くの方がお見えでした。

午後からの合唱団の皆様によるコーラスも素晴らしく、普段の練習の賜物だと思います。又兄弟でマーチングドラム演奏をするブラザービーツのパフォーマンスには、観客の皆様も圧倒されていました。

訪問インタビューでは、地衣類を始め生物学の研究者である吉武和治郎先生にお話しを伺う事が出来ました。普段の生活では馴染みの薄い地衣類ですが、先生のお話しを伺い我々にも身近な存在であることを知らされました。

最後に文化協会の個人会員であるピアニスト小林萌里さん、ブラザービーツ、そして全国大会にも出場された女声合唱団コール・ポプリの今後の予定も掲載しましたので、生の音楽に接する良い機会でも有りますので是非足をお運びください。
(佐々木 哲夫)